

第5期 第2回 東久留米市在宅医療・介護連携推進協議会 会議録

- 1 会議名 第5期 第2回 東久留米市在宅医療・介護連携推進協議会
- 2 日時 令和6年12月20日（金）午後7時から午後8時15分まで
- 3 会場 東久留米市役所7階 704会議室
- 4 出席委員 石橋委員（副会長）、佐々木委員、高岡委員、鶴岡委員（会長）、富永委員、中島委員、  
檜垣委員、平林委員、藤盛委員、降矢委員、堀委員、山中委員、湯原委員  
以上13名
- 5 欠席委員 石塚委員、稲部委員、五明委員、三輪委員、茂木委員、森谷委員 以上6名
- 6 オブザーバー 新妻健康課長、櫻井保険年金課長
- 7 事務局 廣瀬介護福祉課長、原田地域ケア係長、池主査
- 8 傍聴人 なし
- 9 次第
  - (1) 開会
  - (2) 議題
    - 議題1 今年度の多職種研修会について
    - 議題2 東久留米市在宅療養相談窓口の活動について
    - 議題3 在宅療養ガイドブックの更新について
  - (3) その他
  - (4) 閉会
- 10 配布・参考資料一覧
  - 【資料1-1】今年度の多職種研修会について
  - 【資料1-2】認知症疾患医療センター多職種研修会アンケート結果
  - 【資料1-3】第3回多職種理解を深める会アンケート結果
  - 【資料2-1】在宅療養相談窓口・相談業務中間報告書
  - 【資料2-2】がんの痛みの治療における医療用麻薬の自己管理マニュアル
  - 【資料3-1】在宅療養ガイドブックの更新について
  - 【資料3-2】「わたしの覚え書きノート」について
  - 【資料3-3】（別冊）「わたしの覚え書きノート」
- 11 会議録（要点のみ筆記）
  - (1) 開会 （省略）

## (2) 議題

### 議題1 今年度の多職種研修会について

【会 長】次第1の今年度の多職種研修会について、事務局より説明願う。

(事務局より【資料1-1】に沿って説明)

【会 長】それでは、事務局より説明があった多職種研修会について、まず、(1)の認知症疾患医療センター前田病院主催分については本日委員が欠席のため、事務局から報告願う。

(事務局より【資料1-2】に沿って報告)

【会 長】続いて、(2)の東久留米市在宅療養相談窓口主催の多職種研修会について、委員から報告願う。

(委員より【資料1-3】に沿って報告)

【会 長】前田病院と在宅療養相談窓口の多職種研修会についての報告があったが、これについて何か質問や感想はあるか。

【委 員】前田病院の研修に参加させていただいた。グループワークが活発に行われていて、皆さんそれぞれの立場で苦労があるということを話し合う中で、「こういう手もあるのではないか」というような新しい気づきが出ていたと感じた。

【会 長】在宅療養相談窓口のカードを使ったグループワークについては何かあるか。

【委 員】カードゲームを初めてやる方が多かったので、私ごととして考えられたというような意見があった。

### 議題2 東久留米市在宅療養相談窓口の活動について

【会 長】続いて、次第2の東久留米市在宅療養相談窓口の活動についてということで、委員より報告願う。

(委員より【資料2-1】、【資料2-2】に沿って報告)

【会 長】在宅療養相談窓口の活動について報告いただいた。これについて意見や質問はあるか。

【委 員】相談業務の中の居住地別件数のところで、「その他」のところが多くなってきているとのことだが、遠い地域や海外はどういう相談があったのか伺いたい。

【委 員】遠方の家族をこちらに呼び寄せたいというような相談や、家族が遠方に入院しているが、今後どうしたらいいかというような相談があった。海外の方については、観光ビザで入国後、末期の状態になってしまい帰れそうもないというような相談であった。

【会 長】認知症の相談が増えてきたとのことだが、これは何か高齢化などに関係がありそうか。

【委 員】相談のある年代は変わらないので、正確なところは分からないが、認知症だからというよ

りも、認知症に伴うBPSDや、認知症の方をケアする方がうまくサポートできなくてという相談が多い印象であった。

【会 長】介護関係の委員からも質問等はあるか。

【委 員】資料にあった医療用麻薬の自己管理マニュアルは施設向けなので、在宅向けもあったら、共有していただきたい。どちらかというとな訪問看護よりヘルパーのほうが実際は支援することになるかもしれないが、本当にそれはやっていいのか等の悩みがあるかと思う。

【会 長】ヘルパーの話が出たが、ヘルパーとして何か意見や感想はあるか。

【委 員】同様の意見となるが、在宅向けのマニュアルがあるとありがたいと思った。

【会 長】他に何かあるか

【副会長】在宅療養相談窓口で認知症の医療に関しての質問があった時は、どのように対応しているか。例えばMC Iの場合に可能な技術を使いたいというような相談では、どのように医療機関を紹介しているか。

【委 員】前田病院を案内することが多いが、精神的な症状が出ている場合には精神科を案内している。

【副会長】認知症サポート医の紹介はどのようにしているか。

【委 員】まずかかりつけ医にご相談していただくよう案内しているのと、サポート医についても、認知症ガイドブックに準じて紹介している。

【副会長】どういうときには認知症疾患医療センターを紹介し、どういうときには専門病院を紹介するなどの基準はあるか。

【委 員】例えば、すぐに病名をはっきりさせたい気持ちがある場合には専門病院を紹介し、ご本人がまだ認知症ということを受けたくない気持ち強い場合などはかかりつけ医や、サポート医を紹介している。明確な基準はないが、相談員のアセスメントに応じて紹介をしている。

【会 長】他に何かあるか。

(特になし)

### 議題3 在宅療養ガイドブックの更新について

【会 長】続いて、次第3の在宅療養ガイドブックの更新について、事務局より説明願う。

【事務局】資料3-1、3-2、3-3と、「資料在宅療養ガイドブック」、「わたしの覚え書きノート」に沿って説明させていただく。資料3-1で、まず「Ⅱ在宅療養を支えるチームメンバー」のページについては現在各委員と調整中で、修正案などをいただいている。

次に、前回の協議会でいただいた主な意見についての対応内容について報告させていただく。

全体として文字が多いという点については、各委員に原稿依頼する際に減らせるところがないか依頼をしている。その他のページについては事務局で対応をしている。Webアドレスの掲載について意見をいただいたが、現在のガイドブックの表紙にある二次元コードを読み取ると在宅医療に関する市のホームページに飛ぶようになっており、そこで参考サイトを掲載している。

次に、サービス費用についてのQ&Aがあるとわかりやすいのではないか、という点については、ガイドブック35ページの「Ⅲ各種制度について」のところに「介護保険とは」の項目があり、緑色の枠で「介護保険サービスの詳しい内容については、『東久留米市ともにはぐくむ介護保険』をご参照ください」と記載があるところに介護保険の冊子に飛べるような二次元コードを追加することを考えている。

次に、ガイドブック38ページの『わたしの覚え書きノート』については、資料3-2として改訂案を作成した。前回の協議会でACPの話し合いの進め方の図を入れた方がいいのではないかという意見があったので、「ACPとは」の説明の横に図を入れようと考えている。また、中面の「介護費用」の項目で、現在は複数回答についての記載がないため、「複数回答の場合もあります」という文言を追加した。

次に、別冊『わたしの覚え書きノート』については、資料3-3として改訂案を作成した。表面真ん中の「ACPとは」内の文章に、その上の説明文と同様の部分があったので削除しようと考えている。また裏面に入っていた、「このノートがいざというときに…」の文を目立つようにという意見があったため、表面の名前の下に移そうと考えている。中面については、先ほども説明した「介護費用」のところに、「複数回答の場合もあります」と追加している。

最後に、ガイドブック内の「わたしの覚え書きノート」が、現在は38ページに掲載されているのをもう少し手前のページに移してはどうかという意見があった。事務局の方で検討をした案としては、見開きのページ等の都合と全体構成を考え、Ⅲ章、Ⅳ章をⅤ章の後ろに回し、冊子の後ろからすぐ見られるようにしてはどうかと考えている。以上の改定案について意見をいただければと思う。

**【会長】**ただ今事務局から提案があったものを確認し、不足や新たな意見があれば伺おうと思う。

1つ目と2つ目については各委員と調整中のことで、3つ目の「Webアドレスの掲載」については前回の協議会で意見が出たが、ガイドブック表紙の二次元コードから市のホームページに遷移して、参考のウェブサイトリンクできるということだが、これについては、意見があるか。

**【副会長】**参考サイトとは何を指しているか伺いたい。

**【事務局】**例えば14ページに書いてある参考サイトの「地域医療情報システム ひまわり」や「東久留米医師会」などを指している。

【副会長】それであればガイドブック表紙の「参考サイト」のところを冊子内で使われているオレンジ色にするか、「冊子の中にある参考サイト」というような表記にするなど関連付けていただければと思う。

【会 長】続いて4つ目の「サービス費用についてQ&Aがあるとわかりやすい」ということで、「35ページに市が発行する介護保険冊子を確認できるように二次元コードを追加する」ということである。これについては意見があるか。

(特になし)

【会 長】続いて、38ページの『わたしの覚え書きノート』について」ということで、先ほど説明があったように、資料3-2にACPサイクルの図が入っている。これについては意見等あるか。

【副会長】図が入るとこにより字が細くなり、文章量が多くなるのは気になる。

【事務局】補足させていただくと、介護福祉課の窓口に「人生会議」のチラシを配架しており、そちらには話し合いの進め方の例としてACPサイクルの図が入っている。ガイドブックの方にもそれを載せることで、関係者がもう少し話し合いなどに関心を持っていただき、市民に勧めただけのきっかけになればと考えている。

【会 長】「人生会議」のチラシにある図をコンパクトにして載せるということだが、載せることにより字が小さくなるという意見も出た。

【委 員】「絵」と記載があるところはどんな絵が入るか。

【事務局】人が考えているイラストや、話し合っているイラストを入れようと考えている。

文章量が多くなるということであれば、「定期的に見直す」の文字を消すか、ACPサイクルの説明を大項目だけにし、「考えてみる」、「信頼できる人に話す」、「共有して残す（書き留める）」とすることもできると思うが、それでも伝わるかというところで委員に意見を伺いたい。

【委 員】「ノートを活用するときのポイント」や、『わたしの覚え書きノート（東久留米版）』は市HPからダウンロードできます」の部分のカットし、ACPサイクルの絵を大きくした方が、視覚的にイメージできるのではないか。別冊の方には「ノートを活用するときのポイント」の記載があるので、ガイドブックの中では、「まず考えてみよう」、「信頼できる人に話してみよう」、「共有して残してみよう」、「これを定期的に見直していこう」というのをインパクトある絵で見せて、繰り返しやるものと思ってもらいながら次のページを見ていただくのがいいのではないか。

【事務局】「ホームページからダウンロードできます」などは小さくして、場所を取らないように考えたい。

【会 長】このあたりは小さい字にするなど考えていただき、「ACPとは」の字は小さくしないで、

図も大きく入れるようにするということがいいか。

【委員】次ページにも『わたしの覚え書きノート』を書いてみませんか」とあるので、小さくするなり、削除しても問題ないかと思う。

【会長】図を大きくして他の部分を減らすという意見だったが、副会長はいかがか。

【副会長】全体で字が多いと言われており、字が細かいと見たくなくなるので、そのようにしていただくといいと思う。

【会長】それでは事務局にはそのように進めていただく。後は資料3-2中面の、介護費用のところに「複数回答の場合もあります」の文言を入れ、複数選べるようにした方がいいのではないかと意見を反映して、追記してあるがこちらに意見はないか。

(特になし)

【会長】それではこちらを追記する。

次に、資料3-3の別冊「わたしの覚え書きノート」についてということで、ACPの説明が繰り返しになっているので赤線を引いてある箇所は削除するということと、後ろの方にある「このノートがいざというときどこにあるか」という記載がわかりにくいので、前に持ってくるということだが、これについて意見はあるか。

(特になし)

【会長】では、こちらも採用する。

最後の項目が、ガイドブック内の「わたしの覚え書きノート」の掲載位置を手前のページに移してはどうかという意見で、現在39、40ページの掲載されているのをもっと前の方に移動してはどうかとの意見が前回の協議会であった。それに対し事務局案では、後ろの方のページにしてすぐ見られる方がいいのではないかということで、現在の49ページのところに「わたしの覚え書きノート」を移せば、説明する際、後ろからめくりやすいだろうということで、提案があったがいかがか。

【事務局】補足だが、Ⅲ章の「各種制度について」の成年後見の次のページからACPという流れにしたいため、Ⅲ章とⅣ章を後ろにして、Ⅴ章の「医療と介護連携マップ」を前にしてはどうかと考えている。

【会長】事務局から掲載位置についての説明があったが、これについての意見はあるか。

(特になし)

【会長】特に意見がないようなので、事務局案の通り進めることとする。事務局からの修正案については以上になるが、全体を通し意見があれば伺いたい。

【委員】表紙の二次元コードを読み取った先で在宅療養ガイドブック第4版をホームページから

見られるが、そこに赤字で現在休止の事業所について掲載されている。他の事業所も終了したところが出てきているが、最新情報はどれぐらいの間隔で更新されているか。

【事務局】休止と掲載している事業所は、ある程度長い期間休止の届け出等をいただいているところである。事業所の改廃に関しては「介護サービス事業者ガイドブック」というもので管理していて、ホームページにも掲載している。在宅療養ガイドブックは2年に1度作成している関係で、廃止になった事業所に関してはホームページとリンクしていない取り扱いである。

【委員】紙ベースはすぐには変えられないので、ホームページ上で、できれば3ヶ月おきぐらいに廃止や新規事業所が掲載されるお知らせのようなページがあると最新情報がつかみやすいかと思う。簡単にはできないと思うが、要望として伝えさせていただく。

【事務局】貴重な意見感謝する。検討させていただく。

【会長】他に意見はあるか。

【副会長】在宅療養を支えるチームメンバーを見直ししているとのことだが、私のところにも来ているのか。

【事務局】医師会に依頼をし、医療機関の一覧の更新について返事をいただいている。

【会長】それではチームメンバーのページについては各委員と事務局で調整をしていただき、その後、ガイドブックの発行については事務局と会長に一任させていただく。

#### 議題4 その他

【会長】次に、次第4のその他として、事務局から報告があるとのことでお願います。

【事務局】専門部会の設置についての進捗を報告する。医療・介護関係者の情報共有専門部会と24時間診療体制確保部会の委員の推薦について、各団体の方に依頼をしている状況である。委員が決定したら、どのように部会を開催していくかを報告させていただく。

【会長】委員から他に何かあるか。

【副会長】今後、医療・介護を取り巻く状況はかなり大きな変更が出てくると思われる。今年から第8次医療計画が始まり、かかりつけ医制度の検討があり、来年から新しい地域医療構想も始まる。地域医療介護総合確保基金の使い方や、この協議会自体のあり方も変わってくるかもしれない。また、例えば精神疾患の問題はまだ扱っていないが、そういうことも入れていくなどの話も聞いている。行政や会長は今後どのように検討していくかなど、何か情報を得ているか。

【事務局】市では今のところ具体的な情報を持ち合わせていない。

【会長】私も他の自治体で同様の協議会に携わっているが、まだそのような話は聞いてない。

【副会長】承知した。東京も2040年問題の課題に向けて、どう対応していくかという話がある。

東京都保健医療計画が今年の3月に改訂されており、今まで二次医療圏でやっていたものを今後は一次医療圏である市町村でやるという話も出ているので、今後はそのようなところが変わってくるかと思っている。

医療の方では、かかりつけ医の問題や、外来医療をどうするか、科の制限をどうするか、また、開業に制限を設けるかなど多くの話題がある。在宅の保険に関してはリハビリテーションと、口腔、栄養について点数化されているので、この3つを進めていく必要がある。

医師会では在宅患者の栄養指導に関する取り組みとして、DXを利用し患者の栄養状態をあらゆる形で評価をし、それを参考にしながら、栄養士が指導するという事業をこれから開始する。来年度は口腔リハを取り入れ、在宅患者の栄養改善を行う事業を行っていく。リハビリ・口腔・栄養に関しては、今後、協議会の中でも検討されていくかと思う。

**【会長】** 今後、副会長の発言にあったような動きが出てくる。委員は気に留めておいていただければと思う。その他に、何か報告等はあるか。

**【事務局】** 次回の協議会は、令和7年5月の開催を予定している。

#### (4) 閉会

**【会長】** それでは、これをもって第5期第2回東久留米市医療・介護連携推進協議会を終了する。